

事業環境について

代表取締役社長 竹中 博司

2010年2月9日



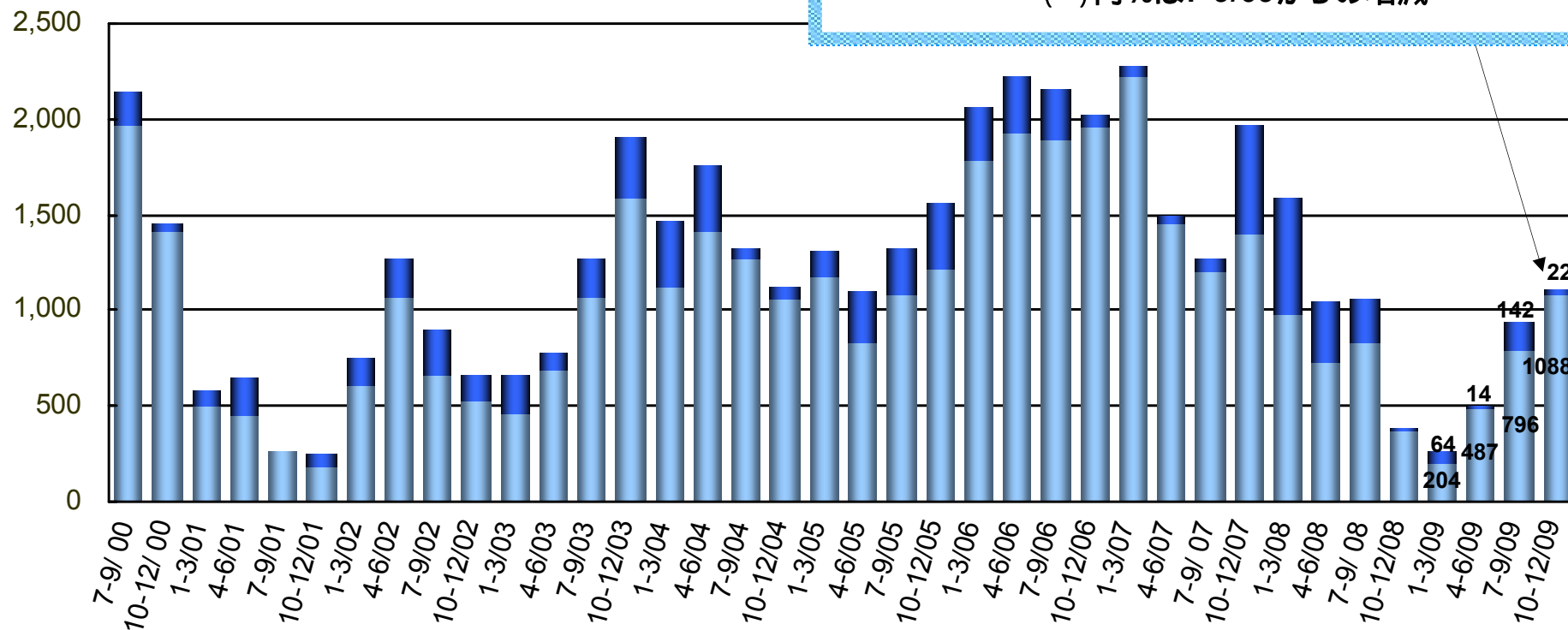
東京エレクトロン

四半期 SPE+FPD/PVE受注額

10-12/09期	SPE	1,088億円 (+37%)
	FPD/PVE	22億円 (-84%)
	合計	1,110億円 (+18%)
()内%は7-9/09からの増減		

■ FPD/PV製造装置
■ 半導体製造装置(SPE)

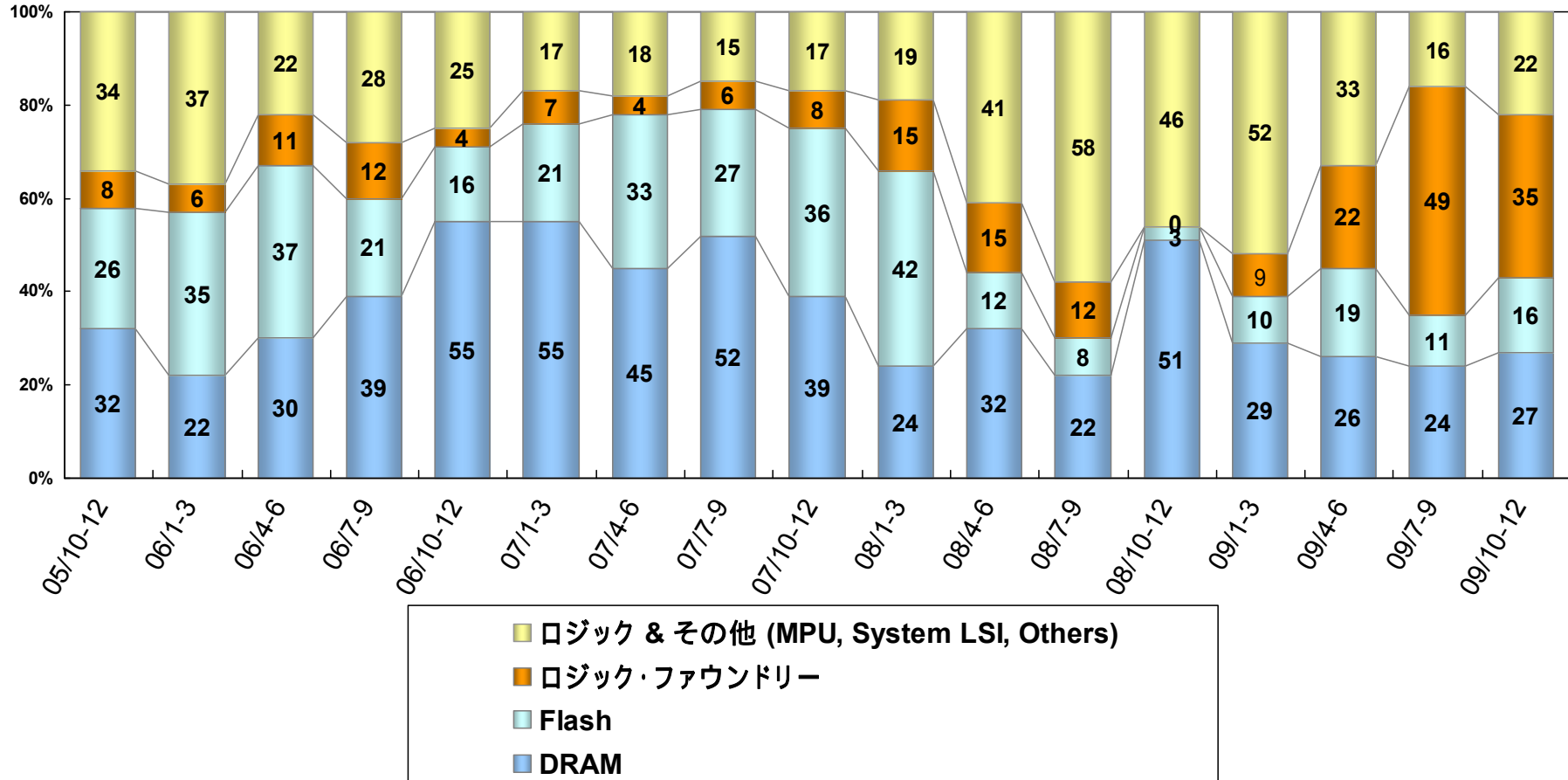
(単位: 億円)



- 2005年10-12月期までは単独ベース、2006年1-3月期より連結ベース
- 単独ベースと連結ベースの主な差異: 連結ベースは海外現地法人におけるポストセールス受注を含む



四半期 アプリケーション別SPE受注 (本体のみ)



(当社推定)

今年の事業環境見通し

▶ 半導体設備投資

強いセット需要と去年の設備投資調整の影響により、旺盛な受注環境が続く

- NAND: スマートフォン向け需要強く、3xnmの生産能力を増強
- DRAM: 主要各社は4xnm微細化投資を拡大
- LOGIC/ファウンドリー: 工場稼働率が一層向上、40nm/32nm向け投資継続

▶ FPD設備投資

中国でのテレビ需要の活況がつづき、新規ライン建設投資が相次ぐ

▶ PV設備投資

不透明感は残るものの、世界経済の回復と合わせて年後半の回復に期待



宮城新工場 建設計画を再開

最先端エッチング装置の開発・生産期間を短縮

- 開発と量産機能を集約した一貫体制
- サプライチェーン強化による最大生産効率と納期短縮を追及
- 産学連携による最新技術や優秀な技術者の獲得



- 立地場所: 宮城県黒川郡大和町大和リサーチパーク
- 敷地面積: 290,569 m²
- 建設計画: 2010年夏着工 2011年春以降 稼動予定
- 総投資額: 約250億円

東京エレクトロン技術研究所(TDI): 仙台市泉区



まとめ

- メモリ顧客による大型設備投資の増強が期待され
事業環境は好転へ
- 売上の増加と固定費削減の進捗により、今期赤字幅
はさらに縮小、下期は営業黒字化へ
- 最先端製品の開発と量産機能の強化へ向けて宮城
新工場の着工を決定

